

100万人の声調査は世界YMCA同盟による、「若者の声を聴く」ための国際調査です。初回はアンケート形式で実施されましたが、2回目の今回は、世界25カ国の若者に対してグループインタビューを実施し、アンケートでは把握できない「若者の声」を集めて分析しました。日本YMCA同盟では、国内の9つのYMCAの協力を得て、以下の通り調査を行いました。

調査時期：2017年10月～2018年1月
調査対象：17～20歳の高校生・専門学校生・大学生 計46人
調査内容：「雇用」「環境」「健康」「市民参画」等に関する意識
協力YMCA：盛岡・ぐんま・とちぎ・東京・名古屋・神戸・広島・熊本大学・九州ルーテル学院大学

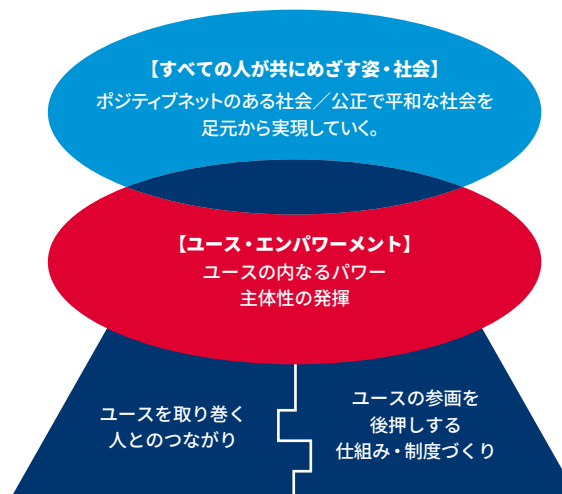


YMCAでは、ユースが権利主体として自分の内なるパワーやさらなる可能性に気づき、主体的に行動していくこと、そのためのプロセスを「ユース・エンパワメント」と呼びます。「ユース・エンパワメント」の先には、ユース自身の「より良い人生」、そしてポジティブネットのある社会／公正で平和な社会の実現があります。

「ユース・エンパワメント」の土台となるのは、「ユースをとりまく人とのつながり」と「ユースの参画を後押しする仕組み・制度づくり」です。

「ユースをとりまく人とのつながり」には、ユースとともに歩むシニアの存在や、ユース同士のネットワーク、プログラムに参加してくる子どもたちやその家族などさまざまな人がいます。そして相互のコミュニケーション、学び合い、話し合いがそのつながりをより強く深いものにしていきます。

「ユースの参画を後押しする仕組み・制度づくり」には、多様な背景を持つユースが安心して過ごしたり、ユースが求めるスキルを学んだり、自分たちの声をあげることのできる場づくりが含まれます。



発行：2019年4月

お問い合わせ先

日本YMCA同盟

〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2-11
Tel:03-5367-6640 Fax:03-5367-6641
info@ymcajapan.org
<https://www.ymcajapan.org/>

今、ユースが 考えていること

YMCAユース・エンパワメント
—100万人の声調査報告—



監修：日本YMCA同盟ユース委員会



ユース・エンパワーメントは、
大人が若者に一方的に手を差し伸べることで、
大人が望むような若者を育成することでもないはず。
若者たちが、何に悩み、何を不安に思っているのか。
何を大切に生きていきたいと思っているのか。
社会に対してどんな意見を持っているのか。
こうした「若者の声」を聴きながら、
若者と一緒に歩いていくことこそ、
YMCAが目指すユース・エンパワーメントの出発点です。



日本の若者の意識 — 100万人の声調査より

① 雇用 (Employment)

自分がやりがいを感じるかどうか

地域貢献や人間関係など「やりがい」や「働きやすさ」を収入よりも重視しています。厳しい環境での労働は自分の幸せと相容れないという考えが背景にあるようです。将来のために、学校外で多様な人と直接関わる経験を重視していて、YMCAのボランティア活動を経験したユースは、「どうしたら子どもが喜ぶかを考える」「思い通りにいかないから、その場その場で考える」「人と触れ合っているんな価値観などを発見できる」と述べています。

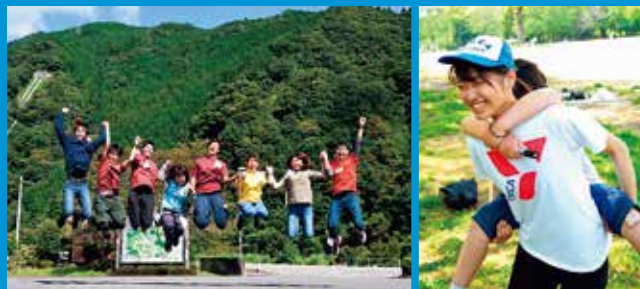
② 健康 (Health)

その人が満足し、充実しているのが健康

その人にとっての心身の健やかさ、特に心の健康（メンタルヘルス）への配慮を重視しています。睡眠や食事などの生活習慣を維持し、過度のストレスのない生活を送ること、悩みを相談したり、喜びを分かち合える友人や家族などの身近な人とのつながりがあることが、健康で豊かな生活を送るうえで大切だと考えています。

インターネットやSNSは、同じ趣味や価値観を持つ人との濃密な関係を作り出す一方、他者と比較したり、依存や同調圧力を感じる場にもなっています。またSNSでは直接人と会わないため、実際の人間関係でストレスを感じやすくなるという意見もありました。そのためか、他人に頼ったり、迷惑をかけたりすることを避け、他人に期待しないよう防衛線を張る傾向がみられました。

健康で豊かな生活を送るために、「自分らしいままでいい」と思えるような場づくりや、自分の枠をこえて「外に出る」活動が提案されています。YMCAのキャンプは、野外に出て身体を動かし、色々な人や自然に出会い、心も身体も解放していく活動だといえます。



③ 環境・持続可能な未来 (Environment & Sustainable Future)

少子高齢化で「働き手」「社会をつくる人」の減少が心配

学校でグローバルな環境問題を学習しており、再生可能エネルギーに対する期待も高いです。ただし、日常生活との関連は意識しにくいと感じているようです。地域の持続可能性については、ユースの強い問題意識がみられました。地方のユースは少子高齢化や過疎化による地域の衰退について、都市部のユースは都市への人口集中や環境汚染などを問題視しています。ユースが希望をもって地域の担い手になっていくための支援が必要とされています。

④ 市民参画 (Civic Engagement)

若者でも地域を変えられるという意識が 持てるような活動が必要

ユースの生活に直結した政策は少なく、集まって話し合う場もないため、多くは「自分一人が何か言っても無駄なんじゃないか」と感じているようです。しかし、市民参画を促進するための方法を聞くと、学校で早い時期から政治について学ぶ、政治家と直接対話する機会を設ける、若い世代の議員を増やす、SNSを有効活用することなど多くの意見が出ました。ある高校生は、地域の小規模な活動を自ら企画・運営することで、社会を変えられるという意識を積み重ねていくことの必要性を主張しています。